

学校検診について

近視グループでは、京都府立医大倫理委員会、京都眼科学校医会、京都市教育委員会の承認を得たうえで、学校検診に参加させていただき、近視進行の現状の調査をすることになりました。場所は京都市立の小中一貫校である凌風学園で、現小学1年生85名、2年生94名、3年生68名の計247名を対象としています。今後、最短6年から最長9年の継続調査を年に1回実施していくことになっています。調査内容としては、矯正視力検査、両眼開放レフによる屈折度数検査、IOLマスターによる眼軸長測定検

査、ウェーブフロントアナライザーによる高次収差測定、保護者に対するアンケート調査です。これらの調査の継続により近視の進行度合いや近視進行に関わるファクターを解析していきます。

本年度は9月5、6日に医師5名、視能訓練士5名、補助員2名が交替で担当しました。1日目は要領を得るまで少し時間がかかり、待ち時間ができると小学生たちがざわついてしまいましたが、慣れてきてからはスムーズに検査できました。1年生はほとんどの子が近視のない印象でしたので、やはり小学生のうちに近視が進行していくのではと改めて実感させられました。今後継続することによって新たな知見が得られることに期待しています。

ご協力くださいました学校関係者のみなさま、眼科学校医会



の先生方にこの場をお借りして御礼申し上げます。(中村 葉)



ウェーブフロント
アナライザー



両眼開放レフ



IOLマスター

Refractive Surgery Update Seminar 2013 in Kyoto 印象記

7月20日(土)、ウエスティン都ホテル京都において、リフラクティブ関西研究会主催によるRefractive Surgery Update Seminar 2013 in Kyoto が開催されました。前身のレーシック関西から現在まで本邦で唯一続く、屈折矯正手術専門のセミナーです。角膜屈折矯正手術だけでなく屈折矯正までを考慮した白内障手術に関連する講演が多数あり、本年も定員を大きく上回る人数の参加がありました。

第一部(午前)は教育セミナーとして、「屈折矯正検査 角膜・水晶体」(座長 前田直之先生)と「乱視矯正と白内障手術」(座長 真野富也先生)が行われました。角膜トポグラフィの評価(福岡佐知子先生)で各種角膜形状解析装置の使用とその意義について、小児での評価法(稗田牧先生)として小学生における近視進行のメカニズムについての考察、光学系の評価(神谷和孝先生)について収差のみならず散乱を含めた新しい測定装置について、角膜生体力学特性(淵端睦先生)では、角膜の強

度を測定する新しい装置の紹介と測定意義について解説していただきました。続いて乱視矯正のコツと注意点(大内雅之先生)として乱視矯正も可能であるトーリック眼内レンズ(IOL)を使用するための実際の術前検査方法から、術中の注意点と術後評価について、トーリックIOL update(柴塚也先生)では、本レンズの歴史や角膜後面形状も加味した乱視の評価をはじめ最新の知見と今後の新しい展開について、回析積分で計算したランドルト環像(乱視と多焦点)(柏木豊彦先生)では、乱視や、多焦点およびトーリックIOLの、数学的に計算される見え方について、多焦点および乱視矯正多焦点レンズの2次挿入後術後成績(藤本可芳子)では多焦点IOLのadd on挿入について、実際の経験に基づいた解説がありました。

お昼はランチョンで(座長 ビッセン宮島弘子先生・稗田先生)、「最新アップデート!裸眼視力向上の選択肢」として、白内障手術後の裸眼視力向上を目指して、多焦点眼内IOLをはじめとした最新の治療について、宮島先生・福岡先生・福本光樹先生のわかりやすいお話がありました。

第二部(午後)は、シンポジウムとして「レーザー屈折白内障手術」(座長 宮島先生)と、JSCRSシンポジウム(オーガナイザー 根岸一乃先生)がありました。話題のフェムトセカンドレーザーを使用した白内障手術について、実際に使用を始めた先生方に、導入のコツ(宮島先生)や、使用経験(岡義隆先生・永原國宏先生)に

についてお話を頂きました。その後真野先生と木下茂先生を交えて「今、導入するべきか」という、今最も気になるテーマについてのパネルディスカッションがありました。本セミナーに参加された方の多くは、フェムトセカンドレーザー白内障手術に前向きで、賛成派の方が多いようでした。JSCRSシンポジウムでは、先に開催された本年のJSCRSで注目された新しい手術手技について講演がありました。老視に対する手術治療として、レーザーブレイドビジョン(中村友昭先生)について、モノビジョンを使った老視レーシックの最新の現状を、また老視用角膜インレー(荒井幸幸先生)の使用について、その実際と効果について解説がありました。いずれも症例の選択が最大のポイントであるようです。次に、フェムトセカンドレーザーのみを使用して、フラップを作成せずに角膜屈折矯正を行うSMILE(神谷先生)について通常のレーシックとの比較を、最後にICRS及びクロスリンキング(稗田先生)について、円錐角膜やエクタジアに対するこれからの外科的治療について解説があり、いずれも最新のアップデートとなる講演でありました。

第三部では恒例の「症例から考える白内障・屈折矯正手術」(座長 木下先生)として、珍しい症例や難症例についての症例検討が行われました。今年も討論が白熱し盛況のコーナーでした。

以上、本年も全国規模の専門学会を凌駕するほどの内容であり、大変勉強になりました。(中井義典)



編集 後記

お待ちしております。Eye Treat革命第15号をお届けします。

これまでと同様、本号でも、長足の進歩を遂げている眼科の革新的治療や府立医大眼科のアクティビティの情報が満載です。隅々までお楽しみください。編集部では、みなさまのご意見を広く募集しております。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。(編集部)

EYE Treat 革命 編集部(稗田 牧、永原 潤子) 京都府立医科大学 眼科 〒602-0841 京都市上京区河原町通広小路上る梶井町465 TEL: 075-251-5578 FAX: 075-251-5663